

起決総全 廃撤費光水 勝利斗争館学 本日

集会(7時より)に結集せよ



生協解体策動を全組合の結集で断固として粉碎せよ

全市大の組合員諸君！

既に我々が幾度となく主張してきたことは、現在の生協危機をもたらしたものは、封鎖を含む学闘斗争によるものではなく、現代資本主義の基本的動向―流通過程の再編成と合理化、ビッグストアーの進出、インフレーションによる学生の購買力の相対的低下―に規定された、必然的な結果であるということであった。昨年六月の総代会では他大生協が陥ち入った誤り―封鎖のために生協が危機になったのだから封鎖を解除すれば危機を回避できるという発想―を排除し、徹底して組合員の生活を防衛する立場から対大学斗争を大胆に展開していくことを確認したのであった。そして、京都大学生協(リ民青系)に於いてみられた如く、大学当局が配布した「黄色いヘルメット」を勞使一体となって拒否して着用し、封鎖を解除するというあの「茶番」に「ならぬ喜劇」を繰り返すことを主体的に拒否したのであった。

そもそも水光費とは本来的に如何なる性格のものであるうか。我々はさまざまなブルジョワイデオロギーに包囲されているのであるが、その最も悪しきものとして「受益者負担」という社会的に慣習化された支配者のイデオロギーが存在する。この受益者負担の犯罪性は、医療、保険の例をみるまでもなく明らかである。我々が組合員の生活を防衛する立場にたつてみる以上、こうした悪しきブルジョワイデオロギーに基盤を置く水光費の生協負担は組合員負担は全く我々にとって受け入れることができないのは当然である。

組合員諸君！ここで再度確認しようではないか。

現在大学当局は生協が水光費を支払っていないことを理由に、事業所不貸与という恫喝をしにかけてきている。しかも、医学部事業所において病院当局は、生協との間に新規契約を調印していないというだけの理由で、生協が病院の要請で行っている看護婦、厚生学院生への給食代金を四月以降支払っていないのだ。病院、大学当局のななる生協に対する攻撃は、換言すれば、全組合員六千名に対する重大なる宣戦布告であり、市大無責任体系をあますところなく露呈しているものと考えよう。

すべての組合員諸君！

まぬけ面をして「自治会依り」に狂奔している諸君をみるがいい。彼らの行動は運動を作るのではなく、権力をデッチ上げようとするものであり、彼らの最大の願いは、あの立命館やウシユビッツ体制をこの市大にも作り上げることなのだ。その一歩が生協乗取りのものだ。我々は今ここに、大学当局、日共民青に対して公然たる闘いを組織し、全組合員を結集して断固闘い抜くことを宣言する。